

2025年5月、「山形大学人材育成プログラム「i-HOPE」2025

新事業創出イノベーションプログラム」が始まりました。

本記事では、2025年5月の講義の様子をご紹介します。



新事業創出イノベーションプログラム「i-HOPE」2025

○新事業創出に必要な起業家精神と知識・スキルを学ぶプログラム

○期間は2025年5月から12月の約8か月間

○隔週土曜日開催で講義日は全17回

●入塾式 オリエンテーション (5/10)

山形大学アントレプレナーシップ教育研究センター長・小野寺氏より、本プログラムの開講にあたり挨拶が行われ、今年度のテーマとプログラムの目的について説明がありました。テーマは「しなやかマインドセット=growth mindset」。これは「人間の基本的資質は努力しだいで伸ばすことができる」という考え方に基づいており、参加者に対して、失敗を恐れず挑戦を重ねながら自己成長を図る姿勢を大切にしてほしいというメッセージが伝えられました。



山形大学 教授
アントレプレナーシップ教育研究センター
センター長
講師：小野寺 忠司氏

●付加価値創造こそが循環型経済を実現する (5/10)

野口氏による基調講演では、循環型経済に必要なのは「付加価値の創造」であり、それは顧客や社会からの“感動”や“満足”の対価であると定義されました。また、潜在ニーズの早期発見、社員への権限付与とWell-beingの関連、自発性を尊重する姿勢が、ビジネス成功の鍵になると語られました。経済的成功だけでなく、持続的成長を見据えた価値創出のマインドセットについて、示唆に富んだ講演となりました。



山形大学客員教授
三井住友信託銀行(株)エグゼクティブアドバイザー
講師：野口 謙吾氏

●ケーススタディ (5/10)

チームディスカッション形式で行われたこの講義では、ケース教材「宇宙船」を用いて、グループでの意思決定とコミュニケーションの難しさを体感しました。まずアイスブレイクとして、相手の名前を覚えるアクティビティを実施。その後、地球脱出のために宇宙船に誰を乗せるかを選ぶシミュレーションを通じて、受講生の方々はコミュニケーションや、チームでのタスク実行、判断への影響などの考え方を学びました。



山形大学 客員教授
一般財団法人SFCフォーラム 事務局長
講師：廣川 克也氏

●ビジネススプリングボード① (5/24)

ビジネスプランの本質は「誰かのお困りごとを解決し、対価を得る設計図」であり、その上でアイデアを事業へと昇華するための9つのステップ「ビジネススプリングボード (BSB)」が紹介されました。今回は特に「ステップ1：実現したい未来を描く」に焦点を当て、「理想の未来」と「現実」のギャップを「数値」で表現し、対象者を明確に設定した上で「マーケットイン」や「プロダクトアウト」の視点での発想法の重要性について解説しました。



山形大学 准教授
アントレプレナーシップ教育研究センター
副センター長
講師：菅生 達仁氏

●フィールドワーク先である尾花沢市からの説明 (5/24)

日本の温泉地の中でも屈指の人気を誇る銀山温泉、収穫量日本一を誇る夏すいか、山形県一の飼育頭数を誇る「雪降り和牛尾花沢」、山形県一の人気を誇るサンビレッジ徳良湖オートキャンプ場等の「尾花沢市のオーセンティック」について説明いただき、それらを活かしたビジネスプランを考えてもらう際の場所、人、媒体、歴史等、フィールドワークで目にし、体感し、追究して欲しい情報について詳細に解説していただきました。講演後には活発な質疑応答が行われました。



尾花沢市 総合政策課 課長
講師：永沢 晃氏

●グループワーク① ～課題の仮説を相互検討する～ (5/24)

「BSB」講義を踏まえ、「未来を描く」及び「真因を見つける」の項目の記入について、「数値で考え、数値で表す」とことと「MECE (Mutually Exclusive and Collectively Exhaustive) =漏れなく、ダブリなく」の視点で情報を整理していくことの重要性を解説しました。その後、「BSB」シートの前述の2項目についてあらゆる観点を洗い出し、情報を整理するグループワークを行いました。



山形大学 准教授
アントレプレナーシップ教育研究センター
副センター長
講師：菅生 達仁氏

Photo



質疑応答



自己紹介



グループワーク